

## 「高齢者住宅新聞」網谷社長に伺いました

～2022年、高齢者介護と住宅/施設をとりまく現状と課題～



高齢者住宅新聞社社長。1992年、大学卒業後「亀岡太郎取材班グループ」の「全国賃貸住宅新聞社」に入社。2006年同グループ内に「高齢者住宅新聞社」を創刊、2007年代表取締役就任。高齢者に関わる施設や住宅のほか、高齢者福祉・介護に係わる幅広い情報を事業者・一般に提供。更に毎年東京、大阪にて開催される「住まい×介護×医療展示」を主催。セミナー等の主催も多数。

「科学的介護」への取り組みを事業者選択の目安にする時代が来るかもしれません。

Q: さて、2022年、現状を踏まえての高齢者の住まい・施設のあり方、選び方とは？

網谷: 高齢者の住まいはざっくり分けるとすればいわゆる「施設系」と言われる「介護老人福祉施設<特別養護老人ホーム: 特養>」「介護老人保健施設<老健>」「認知症対応型共同生活介護<グループホーム>」「介護付有料老人ホーム」など原則介護サービスが含まれるものと、サービスは外付けとなる「住宅型有料老人ホーム」「サービス付高齢者向け住宅」他、に分けられる事になります。「科学的介護」の導入で「地域包括ケア」に厚みを持たせ、在宅介護を充実させていきたいのが国の考え、後者の数が少しずつ増えているのが現状で、福祉先進国と言われるオランダなどでも同様の傾向が見られます。

Q: さて所謂「施設系」の状況は？

網谷: いわゆる「施設系」の「特養」や「老健」「グループホーム」は本来その目的や入居者の対象があるわけなのですが、サービス外付けの「住宅系」も含め、現在は混沌としています。地域の特性や一人ひとりのニーズに応じて行こうとすると画一的な対応が出来ないのが現状です。

Q: 類型化されている「施設」役割や概念がくづれつつあると、いうことでしょうか？具体的には

網谷: 例えば「特養」と言う重度の方の受け入れ<要介護3以上>、料金の面での配慮がありました。10年以上前から「新型特養」と言う名で政策的には完全にユニットや個室へのシフトが見られ、料金的なメリットが薄れつつある。「特養」も高齢者の「住居」と言う考え方からすると流れは当然なのですが…。

Q: 「介護老人保健施設」<老健>の「特別養護老人ホーム化」言う声も聴かれます。

網谷: 本来「老健」に期待されている事は「在宅復帰」「リハビリ」等です。「グループホーム入居予備軍」かもしれません(笑)。しかし、現状としては入居者の重度化と共に「特養」とあまり変わらないことをしているケースもあります。寝たきりの方でもリハビリを希望されれば、拘縮予防、離床介助などを実施しますが、主としては介護者の介護軽減ということで入居されることが殆どです。また、「特養」入居待機中だが自宅で介護が出来ないとして利用される方もいます。老健の場合その地域性によって、施設の役割も異なっているのが現実。過疎で施設整備が十分に行き届いていない地域の「老健」では、「特養」の役割を期待されるでしょう。「看取り介護」に積極的に取り組むケースもあります。反対に、在宅サービスが充実している地域では「老健」がしっかり在宅介護を支える機関として機能しているところもあります。

Q: そしてグループホームも医療依存度の高い方のお問い合わせや入居希望が増えてきている。勿論ほとんどの方が「終の棲家」としてご入居を考えられています。

網谷: 施設の形態を問わず「認知症」「医療との連携」「終の棲家」これらへの対応は介護施設運営のもっとも重要な課題です。特にユーザー側からすると「高齢者の住宅・介護施設=終の住み家」と言う思いもあるでしょうが、残念ながら施設は病院ではありません。自分のニーズに合わせこれらの対応の限界点をしっかり見極める必要があります。慌てて「施設」を探すのではなく、出来る事なら、もう一度「住宅」を探すというスタンスで、時間をかけ「施設」探しをすることが必要と考えます。

今月は「高齢者住宅新聞」や「住まい×介護×医療展(旧高齢者住宅フェア)」等、紙面やイベントを通じ広く介護に関わる情報を発信されている高齢者住宅新聞の網谷社長にお話を伺いました。

Q: 網谷社長、ありがとうございます。4年ぶりの登場になりますがこの間に高齢者介護を取り巻く状況、また介護・施設に関わる環境はどのように変化をしたのでしょうか？

網谷: 4年前にも触れた三つの課題「財源の不足」「人材確保」「サービスが足りない」と言った「介護3大不足」がなかなか解消されないのが状況です。そんな中、3年に一度見直される「介護保険制度」「介護報酬」の新しい仕組みが昨年からはじめました。この中で最も関心を集めているのが「科学的介護の導入」です。現時点で介護保険の全てのサービスに導入されている訳ではありませんが将来的にはサービス全般に導入されることが予想されます。

Q: 介護事業者間でも関心の深い「LIFE(ライフ:科学的介護情報システム、Long-term care Information system For Evidence)」ですね。

網谷: その通りです。'90年代から医療分野においては、「根拠(Evidence)に基づく医療」が実施されていますが、「科学的介護」とは介護の分野でもこれにならない各々の介護事業者が利用者の「ADL」「栄養状態」「口腔機能」「認知症の状態」などのデータを提出、蓄積されたデータをフィードバックし、そのデータを基に介護を行い、利用者サービスの向上、現場ケアの改善、効率化の推進に役立てる。併せてそれを基に事業者への介護報酬<加算>を算定していこうというものです。

Q: 介護事業者間では「LIFEに取り組みないと生き残れない」といった危機感が聞こえてくるのは報酬マターにありますね。

網谷: 勿論、背景には介護保険給付費の増加を抑制したいという意図が見てとれますし、財政対策の要素を持っています。介護業界の抱える「三つの課題」解消の一助にしたい考えです。

Q: 「科学的介護」の導入は一般の利用者に対してはどのような影響やメリットがあるのでしょうか？

網谷: 利用者にとってのメリットが直ぐに現れるとは考えにくいですが、将来的には事業所からの主観的な情報だけでなく利用者ニーズに適したサービスを選択し易くなる、また科学的に効果が認められたケアで経験や感覚ではなく、経験の浅いスタッフでも効果の高い介護サービスを提供できるようになることが考えられます。しかし ICT、AI の導入が様々な業界に比べ遅れていると言われる介護業界では現場スタッフの ICT に対するリテラシーも障害になるかもしれません。また対人サービスにはつきものの「笑顔」「ふれあい」「やさしさ」等のキーワード、更に「属人性」とどのように折り合いをつけていくかも課題です。現状では取り組みに関して言えば規模的に大きな事業所の方が積極的なようです。システム、考え方が普及する頃には今よりも事業者間の格差や淘汰が進むことも考えられます。



「高齢者住宅新聞」は「高齢者の住まいと介護・医療を考える」をコンセプトに、2006年4月に創刊しました。定期的な実施される報酬改定や制度改正のリアルな動向、介護事業者・医療機関の先進的な取り組みなどの情報を週刊で発信しています。



川崎市多摩区のグループホーム「バナナ園生田ヒルズ」より

## 「かわさき健幸福寿プロジェクト」銀賞!!

皆様、川崎市役所の高齢者事業推進課が主催する「かわさき健幸福寿プロジェクト」をご存知ですか？これは高齢者の要介護度等の改善・維持に積極的に取り組んだ介護サービス事業所を評価する仕組みにより、事業所全体のモチベーション向上、御利用者・御家族の要介護度等の改善・維持に対する意欲の向上などにより、介護サービスの質が向上していくことを目的とした川崎市独自の事業です。平成28年から本格的に始まり5年目を迎えるこのプロジェクトは、たとえ介護が必要になってもその方の「したい」「やりたい」を実現して頂くことにより、いつまでも「健やかに」そして「幸せに」、その方らしい生活を送っていただけるよう、要介護度の改善、または維持を目指します。弊社ではこのプロジェクトに毎年参加しています。ここ川崎市多摩区のグループホーム「バナナ園生田ヒルズ」ではご入居以来ずっと0様にこのプロジェクトに参加をお願いしており、今年も「銀賞」を授与されました！個人情報に配慮しつつご紹介いたしますと、0様は88歳の女性、ここ「バナナ園生田ヒルズ」にご入居以来4年間、ずっと介護度「要介護2」を保っていらっしゃいます。0様の夢は「ご家族と一緒に食事に出かけること！」です。ここ2年間はコロナ禍のためご面会や外出はご遠慮いただくことが多くなってしまいましたが、コロナ禍が無事に収束した時には最愛の息子さんと大好きなお寿司を食べに行けるよう、この夢をモチベーションにスタッフと一緒に健康維持に励んで頂いています。具体的には、いつまでも自分の足でしっかりと歩けるように毎日かかさずラジオ体操をされる、また、お食事の時にしっかりと自分で食べるように嚥下体操、虫歯や歯周病予防のため毎食後の歯磨きと歯科医師による定期検査、また施設の構造上、0様のお部屋が少し階段を上ったところにありますが、自主的に1日に何度も昇降「運動になるから良いのよ」と仰られます。そしてもう一つの健康法は歌をうたうこと!!もともと合唱がお好きな方で一日に一回必ず歌をうたわれます、スタッフがCDをかけ忘れると「今日は歌わないの？」とリクエストされるほど！その美声を皆様にお聴かせしたいのに紙面では伝えられないのが残念です。現在のコロナ禍が落ち着きましたら是非「バナナ園生田ヒルズ」に0様の歌を聴きにいらしてください。



皆で記念撮影、スタッフも誇らしいです。授与された賞状とラジオ体操は決して欠かしません継続は功行です。



川崎市宮前区のグループホーム「バナナ園生田の杜」より

## 「口福の会」本格料理とおもてなし

比較的暖かい日が続いた今年の秋、ついこの間まで半袖で過ごしていたのに流石に11月も半ばを過ぎると「もうそろそろ冬が来るのかな？」と感じさせる日が続きます。長かった緊急事態宣言が10月に解除され、すこしずつ世間が明るさを取り戻してきたそんな11月15日、川崎市宮前区のグループホーム「バナナ園生田の杜/泉」では、慎重に計画と準備をすすめ、久しぶりにイベントらしいイベント「口福の会(こうふくのかい)」を開催することになりました。「口福の会」とは、バナナ園グループが催す食のイベント、プロの料理人<岩下美帆先生>をグループホームにお呼びし、施設のキッチンで調理をし、出来たての料理を振る舞い入居者様にレストランで食事をするような「非日常」を楽しんで頂くというものです。久しぶりの会ということもありご入居者の方々は、シブの衣装を着た「料理人<岩下先生>」が施設で料理を作っているのに、ちょっと戸惑っている方もいらっしゃいましたが、いつもと違うテーブル巾着やお花が飾られたリネンを着たスタッフがアテンドしたり、と「口福の会」の特別感を出すことにより、この会の意味を理解し始めました。料理をする音や匂いにつられ岩下先生の調理するところを見に行ったり、メニューに質問をされたりと・・・リラックスして「口福の会」を楽しんでいただけるようになりました。この日のメニューは「秋深まる洋風コース」と題された料理。コース料理と言っても高齢者の方でも楽しんでいただける「家庭料理」をベースとしたメニューです。次々と出される料理はいつもの食事より多目ではありましたが、しっかりと全員完食。認知症になると味覚の機能が衰えたり、食に対する嗜好が変化したりすると言いますが、入居者様のご様子を見ると、レシピの工夫は勿論、器や盛り付け雰囲気作りでいつも以上にお料理や食事を楽しめることを実感します。いつものお食事は私たちスタッフは「食事介助」や「見守り」をします、勿論この日も食事をして頂くお手伝いはしますが、いつもと違うのは「おもてなし」と「お食事を楽しんで頂くこと」でした、久しぶりの「口福の会」で、この日のお料理が入居者様の食の「リハビリ」になったと思います。



←この日のお料理。調理や準備もイベントのうち、料理をする音や匂いが期待とリラックスを誘います。



## バナナ園グループで働きステップ・アップをしませんか？ 介護スタッフ募集中

★介護は7行'イ'～未経験だからこそその7行'イ'が必要です！

### ■募集要項

★職種:ケアスタッフ<①正社員/②非常勤職員>★無資格・未経験からスタート/年齢不問

★給与:① 月給:224,781円～<18歳資格なし夜勤6日含む>

② 時給1,040円<無資格>～1,190円<介護福祉士>

※夜勤1回18,000～20,000円<介護福祉士>①②とも処遇改善加算交付金含

★時間:9:00～17:00 17:00～翌9:00

★待遇:社保・有休・交通費規定内支給:月額50,000円迄

★勤務場所:当社各施設10箇所の中から通勤し易い場所を選べます。

●問合せ:(株)アイ・ディ・エス 採用担当まで

☎044-455-6117

2022年3月新卒社員募集中

会社説明会随時開催中

エントリーはこちらから→



マイナビ2022



## バナナ園グループ

【グループホーム】

- 川崎大師バナナ園 ☎044-280-2386 ●第2バナナ園 ☎044-587-1773
- バナナ園武蔵小杉 ☎044-863-7101 ●バナナ園ほりうち家 ☎044-722-5361
- のんびりーす等々力 ☎044-750-9203 ●のんびりーす ☎044-422-2295
- バナナ園生田ヒルズ ☎044-911-1599 ●バナナ園生田の杜 ☎044-789-5691/5692
- バナナ園生田の泉 ☎044-789-5693 ●バナナ園横浜山手 ☎045-264-9634



## グループホーム空室情報

空室情報、入居に関するお問い合わせは右記の各施設もしくは総合案内

044-455-6119



月刊 MONTHLY BANANA NEWS (毎月1日発行)

通算第205号 編集:株式会社アイ・ディ・エス

川崎市中原区新丸子町734-2 ☎044-455-6119

<HP> <http://www.bananaen.com/>